

基盤産業の立地が 地域経済に与える影響に関する調査研究

～大阪府内市区町村における分析～

大阪産業経済リサーチセンター
主任研究員 福井 紳也

■ はじめに

大阪の地域経済にとって、地域を牽引する基盤産業の立地は重要です。基盤産業が衰退すると、地域経済にとっては大きなダメージとなります。本調査では、地域ごとの基盤産業集積の特徴を明らかにするとともに、「基盤産業は地域の経済成長にプラスである」という仮説を検証しました。

■ 調査結果の概要

経済基盤モデルと基盤産業

地域の経済成長は、経済基盤モデルというモデルで説明できます。経済基盤モデルが説く「基盤産業」とは、輸移出品等によって地域の外部から需要を稼ぐ産業です。

基盤産業は、地域における産業の相対的な集積度を表す「修正特化係数」を計算することで割り出せます。つまり、地域において強みのある産業が基盤産業ということになります。また、「基盤乗数」とは、基盤産業の成長がどの程度地域の経済成長に影響を与えるかを表す数値です。通常、基盤乗数は1を超え、基盤産業は、乗数値の倍数だけ地域の経済成長に乗数効果を持ち、基盤産業の成長が地域の経済成長につながるようになります。

地域における基盤産業の集積

大阪府内市区町村における基盤産業を割り出した結果として、地域によって基盤産業の集積傾向が異なることが分かりました。

大阪府内地域における産業集積の特徴をみるため、修正特化係数を用いた因子分析と、因子分析を基にしたクラスター分析を行いました。因子分析によって、地域ごとの産業集積のいくつかの特徴を割り出せます。また、クラスター分析では、因子分析によって分かった産業集積の特徴を基に、階層的な樹形図を作り出し、大阪の地域を似通った特徴を持つグループごとに分類することが

できます。

因子分析の結果、大阪府内地域における産業集積の要因は7つ特定されました（図表1）。さらに、因子分析を基にしたクラスター分析を行った結果、大阪府内地域は、12グループの産業集積クラスターに分けられました（図表2）。

クラスターの①②は「機械・金属・鉄鋼関連製造、物品賃貸、物流」と「航空運輸、運輸附带サービス」の特徴が目立ちます。①は大阪湾岸地域が多く、②は北摂および北河内の一部、あるいは南方の泉南・泉北・南河内の一部につらなります。

③は「機械・金属・鉄鋼関連製造、物品賃貸、物流」「繊維・木材・家具製造」の特徴があります。堺市の一部に広がるほかは郊外部にみられます。

④は「対ビジネス関連サービス、卸（都心型）」の得点が高く、大阪の都心部地域が含まれています。「農林業、飲料、窯業、宿泊」も特徴で、都心部に宿泊の集積もみられるためだと考えられます。

⑤は「農林業、飲料、窯業、宿泊」が圧倒的に高く、「繊維・木材・家具製造」も特徴です。能勢町だけ該当し郊外型立地といえます。

⑥は「電気関連製造・研究機関」がかなり高く、「農林業、飲料、窯業、宿泊」が高い得点です。当該産業が集積する島本町だけ該当します。

⑦は「電気関連製造・研究機関」「繊維・木材・家具製造」が高く、門真市と忠岡町が該当します。

⑧は「繊維・木材・家具製造」「航空運輸、運輸附带サービス」が高く、関西国際空港に関連した施設が集まる田尻町のみ該当します。

⑨は「航空運輸、運輸附带サービス」「パルプ・紙・プラ製造、貨物運送」が高く、堺市の一部、泉南・泉北・南河内の一部が含まれます。

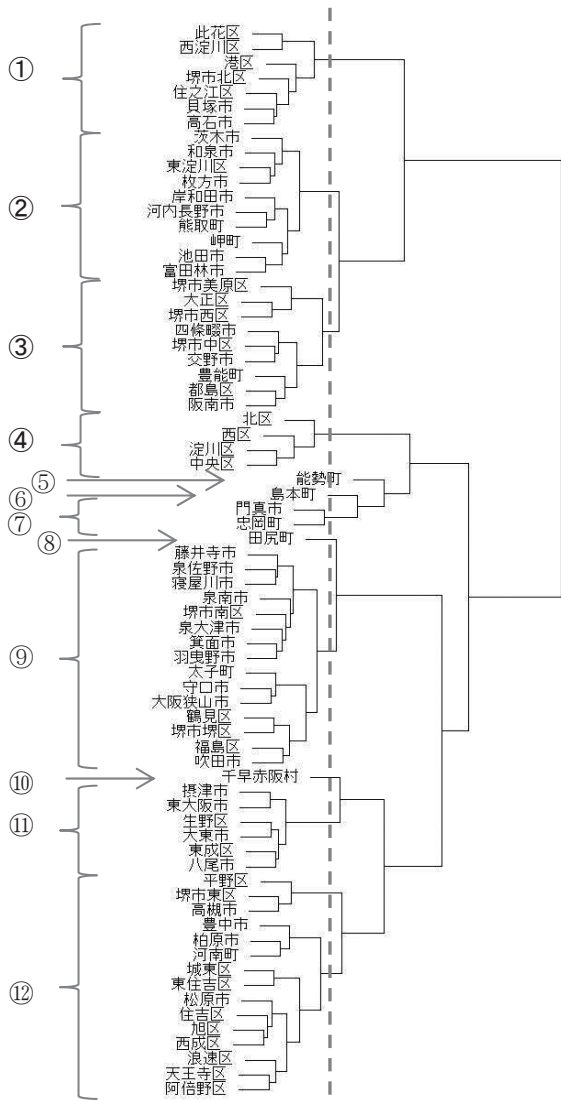
⑩は「パルプ・紙・プラ製造、貨物運送」がかなり高く、「農林業、飲料、窯業、宿泊」も高い

図表1 クラスター別の因子得点の平均値

	第1因子 「対ビジネス 関連サー ブス、卸(郡心 型)」	第2因子 「機械・金属・ 鉄鋼関連製 造、物品賃 貸、物流」	第3因子 「農林業、飲 料、窯業、宿 泊」	第4因子 「電気関連製 造・研究機 関」	第5因子 「パルプ・紙・ プラ製造、貨 物運送」	第6因子 「航空運輸、 運輸附帯 サービス」	第7因子 「繊維・木材・ 家具製造」
①	-0.02	1.83	-0.27	-0.02	-0.58	1.65	-0.29
②	-0.54	0.26	-0.07	-0.18	-0.78	0.24	-0.43
③	-0.51	1.41	-0.07	-0.34	-0.60	-0.91	0.37
④	3.42	-0.01	0.23	-0.16	-0.43	-0.27	0.00
⑤	-0.10	-0.80	6.41	-1.00	0.12	-0.73	0.36
⑥	-0.24	-0.69	1.26	5.61	-1.82	0.42	-0.77
⑦	0.32	-0.19	-1.18	3.48	0.81	1.13	2.65
⑧	-0.45	-0.68	0.01	-0.65	0.03	2.48	2.54
⑨	0.17	-0.76	-0.15	0.02	0.65	0.86	-0.17
⑩	-0.19	-0.25	1.85	-0.28	4.80	0.22	0.48
⑪	-0.17	0.46	-0.53	0.52	1.41	-0.63	-0.36
⑫	-0.41	-0.69	0.19	-0.29	-0.02	-1.60	0.06

(注) 得点が高いほど、グループにおける特徴が強い。

図表2 クラスター分析による大阪府内市区町村の産業集積の特徴グルーピング



(注) 階層的な樹形図を点線で縦に切ること、12のグループに分けられる。

得点です。該当するのは千早赤阪村です。

⑩は「パルプ・紙・プラ製造、貨物運送」「電気関連製造・研究機関」が高く、中河内を中心とする製造業の一大集積地である東大阪市、八尾市などが含まれます。

⑫は「農林業、飲料、窯業、宿泊」「繊維・木材・家具製造」が高く、主には大阪市の南東、大阪府の中心部に位置します。

回帰モデルによる分析

次に、地域別基盤産業の従業者数データを用いて基盤乗数を推定しました。「基盤乗数」は、回帰分析によって推定できます。推定された基盤乗数は2弱の値が得られました。地域の経済成長を、従業者数の増加と置き換えますと、基盤産業の従業者数が増加すると、その乗数倍だけ全産業の従業者数が増加します。すなわち、基盤産業は乗数倍だけ地域の経済成長にプラスに影響するといえます。逆に、基盤産業の従業者数が減少することで、基盤乗数倍だけ地域の従業者数が減少することになり、基盤産業の衰退が地域経済の衰退につながります。

まとめ

基盤産業は地域経済を牽引する産業です。基盤産業の多くが製造業である地域において、地域経済を牽引する製造業が衰退をしてしまうと、すなわち地域経済の衰退につながるということになります。地域における基盤産業を適切に認識し、こうした産業の誘致や継続的な立地をはかっていくことが地域経済政策上大切であるといえます。